

特集

あした

2008年

明日の登別、明日の私

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

皆さんにとって2007年はどんな年でしたか。

今月号では、市民の皆さんから募集した、まちづくりへの思いや身の回りのできごと、新年を迎える自分への激励など、日ごろ感じていることを『明日の登別、明日の私』と題して紹介します。

寄せられた『手紙』には、2007年を振り返ってうれしかったこと、2008年を迎える抱負など、さまざまな思いがつつられています。

2008年が、皆さんにとって素晴らしい年になりますように。



わたしたちの登別

東田 渉さん
(登別明日中等教育学校4回生)



今年もまた新しい年を迎えました。でも現在の登別はなんだか元気がないように感じます。誰もいない公園。静かな休日。そんな登別をわたしたちはどうやって変えていくことができるのでしょうか。

わたしは、登別明日中等教育学校に通う高校1年生。わたしが小学生だったころは、毎日みんなが公園で遊んでいました。

現在は、少子高齢化の影響から高齢者向けの施設やサービスが増えています。それは良いことなのですが、子どもたちや親子向けの施設の衰えが目立つように思います。

登別には、マリンパークや伊達時代村、ふおれすと鉱山、温泉など、たくさん施設があります。その施設をうまく活用し、子どもからお年寄りまで同じように楽しめる活動を行えば、登別の活性化につながると思います。

外に出て、季節を感じ、登別に親しみ、明るい明日に向けて今年はまだ頑張りよう。

楽しく、明るく 過ごしたい

山本 ちよ子さん(若草町)

わたしは、現在83歳です。昭和46年に家を建て、若草町に住み始めて37年になります。

家を建てたころは、仕事をしていましたので、町内会の方たちとの付き合いはありませんでしたが、昭和59年に仕事を辞め、その後付き合うようになりました。

町内会の皆さんとは、日帰りで温泉に行き、ごはんを食べたり、おしゃべりをしたりして楽しい時間を過ごしています。

平成8年に主人を亡くし、とても悲しい時期を過ごしました。そのときには町内会などの皆さんに励まされ、とても心強く思いました。

町内会の皆さんは、人の悪口などは言いませんし、わたしが悪いときには教えてくれます。そのようなことが長続きする要因だと思っております。今は皆さんがいてくれてとても良かったと思っています。

わたしは、登別もこの町も大好きです。今後も、主人を迎えに来るまで楽しく、明るく過ごしたいと思っています。